



東北教区報 2023年6月号

あけぼの

発行所

日本聖公会 東北教区

仙台市青葉区国分町2-13-15

TEL 022-223-2349

FAX 022-223-2387

URL <https://nssk-tohoku.com/>

4月22日、公会の主教に聖別されました大きな大きなお恵みを感じ、神さまを賛美いたします。みなさまには、ご臨証ご加禱また沢山のお祝いを賜り有り難うございました。

主教按手式約一カ月前、北海道北斗市にある厳律シトー会・灯台の聖母トラピスト大修道院で、3日間トリートの時を過ごし、その後私は修道士たちの祈りに支えられて立っていられると、根拠もなしに信じています。按手式では、聖公会と他教派の全国の信徒、聖職のみなさんの祈りの力で、この私が保たれているのだと強く確信させられました。これまで、聖餐式の代禱で、首座主教さまや教区主教さまの名前を読み上げて祈ってきたように、私の名前も同じように唱えていただきますようお願い致します。

新主教メッセージ

「ご挨拶」

第9代東北教区主教
主教 フランシス 長谷川 清純



さて現在、私たち日本聖公会は重大な地点に立っています。それは、宣教に関わる、伝道教区制導入による教区再編という喫緊の対応を迫られているからです。今回、東北教区が主教選出に至ったのは大きな決断でした。数少ない教役者からの選出です。それ故、各人がその

後の牧会で疲労して倒れないような工夫、いわゆるチームミニストリーの確立と、信徒の奉仕をプラスするトータルミニストリーの発展が鍵を握っています。

本協働体の名称は「チーム北国」といいます。チーム北国の会合開催地は一カ月毎に札幌と仙台を行き来することになっています。お互いの本拠地に訪ね合うのは、お互いを知るのに適しているでしょう。

東日本宣教協働区である東京教区、北関東教区、北海道教区と東北教区の4教区の協

両教区が所有してきた信仰の財産、宝、例えば幼稚園や保育園の幼児教育、キリスト教保育を実践してきていること、一個一個の教会間の距離は遠くても信仰で固く結ばれていること、長い辛い厳しい冬をやり過ごし復活の新しいいのちを待つ辛抱強さ等々沢山あります。加えて、2011年の東日

本大震災後は、被災者支援に両教区は人材派遣交流をして協働した実績を共有しています。もちろん全教区の協力が今日まで継続しています。被災者との「いっしょに歩こう！」はいつまでも続く教区の重要な宣教の一つです。

過疎化の著しい東北と北海道が、持続可能な教区と教会に変革していくというこれ以上ない困難ではあるけれども、非常に歴史的な使命を私たちは神さまから委託されているのです。私は現在65歳です。チーム北国では、宣教協働区の一つの形の出現を5年後に想定しています。神さまがしつらえたかのように、私の定年退職の年になります。それまで「私の軛は負いやすく、私の荷は軽い」との慰めの言葉に、私は全く頼って参ります。私たちは、北海道教区と東北教区の将来のため一致・協働し祈り続けていければ誠に幸せです。

主よ、どうか、我と日本聖公会が行く道を守り導き、私の僕として御心にかないますように アーメン

救主降世2023年4月22日

東北教区第9代教区主教

主教 フランシス 長谷川清純 師

主教按手式・教区主教就任式



感謝聖別

去る2023年4月22日(土)日本聖公会東北教区主教座聖堂仙台基督教会において主教按手式・教区主教就任式が挙行され、主教被選者フランシス長谷川清純師が、第9代東北教区主教に就任されました。

従来であれば、教区内外から多くの方々をお招きするはずではありませんでしたが、未だに影響が続く新型コロナウイルス感染症への対策、出席者の安全を考慮し、人数を制限した上で、可能な方にはWeb上に参加できるように、L



推薦・試問

ive配信の態勢を整えての開催となりました。そのような状況ではありませんでしたが、会場では日本聖公会主教団、東北教区聖職団、大韓聖公会からの朴東信議長主教(釜山教区)、招待者、新主教ご家族など約100名と共に新主教誕生の喜びを分かち合いました。

式は午前10時より始まり、新主教への「推薦」「試問」「会衆の祈り」から、「聖別・按手」「着座」へと厳かに進みました。特に司式主教である武藤謙一首座主教の「皆さんはフランシス長谷川清純師が主教に按手されることを望みますか」「フランシス長谷川清純



主教按手の証



主教団による按手



会衆の祈り

主教経歴

1958年 秋田県三種町(旧琴丘町)生まれ
 1981年 同志社大学神学部卒業、京都教区聖職候補生認可
 1984年 ウィリアムス神学館卒業
 1985年 執事按手
 1986年 司祭按手
 1991年 東北教区に移籍。これまで、若松、仙台、秋田、能代、大館、磯山、白河、青森、松丘、弘前にて牧会
 (2006年～2009年 立教新座中学校高等学校チャプレン勤務)

2011年東日本大震災発生後、「東北教区東日本大震災支援室」室長、日本聖公会東日本大震災被災者支援「いっしょに歩こう！プロジェクト」プログラムディレクター、東北教区東日本大震災支援室「だいに東北」リーダー、東北教区東日本大震災被災者支援プロジェクトリーダー等を務める。

現在、日本聖公会 正義と平和委員会原発問題プロジェクト長。

家族 妻りつ子、子3人、孫4人



説教者 笹森田鶴北海道教区主教

師を主教として支持しますか」との問いに、会衆は「同意します」「支持します」としっかりと答え、新主教と共に歩む新しい宣教協働の道に對する思いを一つにしているように感じました。

また式中の説教では、北海道教区のマリア・グレイス笹森田鶴主教が登壇されました。そのお話の中で笹森田鶴主教は「教



新主教挨拶

区再編と北海道教区との協働に向けて、並々ならぬ覚悟をもっていること」、また12年前の東日本大震災への関わりを通して、「自らの行く先々にすでに復活の主がおられるという真理」を大切にし、そのイエス様に倣い「痛みと悲しみから目をそらさず、人々に寄り添い続ける」という信仰姿勢を長谷川清純新主教はもっておられること、そしてそれらがこれからの東北教区が歩んで行く上でこの上ない恵みとなるだろうとお話されました。

式の最後には、長谷川清純新主教が就任の挨拶をされ、参列者と家族への感謝を示すと共に、「自身は仲間たちからの祈りに支えられて立っている」という確信。「聖公会自体の教区再編という大きな動きの中で、チームミニストリーやトータルミニストリーをますます発展させていくことが教区として不可欠である」ということ。「北海道教区との宣教協働を初めてとして、持続可能な教会・教区を目指していく使命を託されている」ということ。その実現のために信徒・聖職全員で共に歩んで行きたい。といった非常に明瞭な決意が示されました。

その後謝辞に立った赤坂有司常置委員長からも、新主教と共にアグレッシブに、前向きに教区として成長していきたいという決意と、お祈りくだされた全ての方々への感謝が述べられました。

そして式は新主教による力強い祝福によって結ばれ、東北教区として新しい一歩を踏み出す記念すべき一日となりました。

(副式典長 司祭 渡部 拓)



東北教区聖職団とともに



陪餐

主教按手式の映像はこちらからご覧いただけます



去る3月27日仙台基督教会を会場に、東北教区保育連盟「春の研修会」が行われました。3年ぶりに教区内16園から約70名が参加し、一堂に会し開催できたことは何よりの喜びでした。

東北教区保育連盟 春の研修会

更に今回は、設置者・園長・事務担当者を対象にしたセミナー「急速に進む少子化時代の園運営について」と、教員対象の意見交換会「ズームカフェ・リアル版」を行い、園運営や保育についての喜び・悩みを語り合いました。

あつという間の2時間でした。今回は、7月末に「夏の研修会」を盛岡で行う予定にしております。

(東北教区保育連盟)

副会長 赤坂 典子

参加者からの声

プログラムⅠに参加して

聖ルカ幼稚園 園長
セシリア 近藤 英理子

3月27日東北教区保育連盟の研修会がありました。久しぶりに幼稚園の先生方が顔を合わせて、喜びとあたたかな雰囲気で開催礼拝が始まりました。その後、柳沼芳裕氏の『少子化時代の園営について』と選ばれる園を目指して〜のお話を拝聴しました。少子化の現状、東北教区の園の現状、園の発展に向けての提言など、全てが興味深いお話でした。選ばれる園になるためのポイントは、①マーケットの意識転換②満足度の向上③発信力の強化④東北教区内の幼稚園の連携強化、協働⑤理事会の機能強化とチャレンのスキル向上、と教えていただきました。当園も何か小さなことから変えていきたいと思っています。まずは①と②を意識して、保護者と一緒にコミュニケーションをとり一緒に楽しい時間を作ること



プログラムⅡに参加して

聖パウロ幼稚園 教諭
坂本 詩歩

春の研修会では、「リアルZoomカフェ」ということで、実際に皆さんと、顔を合わせお話しさせていただきました。

全体でのアイスブレイクの後、経験年数でグループに分かれ、リラクセスした雰囲気の中でお話ししました。私の参加した1〜2年目のグループでは、昨年度を振り返りながら、来年度に向けての気持ちや不安などについて語り合いました。どの先生も、悩みながらも、同僚の先生や子どもたちに助けってもらいながら、充実した1年であったこと。だからこそ来年度を楽しみに思う気持ちは同じであることが分かりました。

これまでZoomカフェでお話ししていた先生方と、実際に顔をしながらお話しし、場所は離れているけれど同じ思いを持った先生方がいるんだな、と新しく始まる新年度を前に沢山のパワーをいただ

きました。保育の世界に入った時からコロナ禍にあった私たち1〜2年目のグループにとっては、本当に嬉しい時間でした。

講師の八木陽子先生には、保育の中での考え方の話や、保育の振り返り方の一つとして保育ノートという方法も教えていただきました。先生の温かく明るい雰囲気の中で、楽しいひとときを過ごすことができました。

このような機会を本当にありがとうございました。

今後もZoomや対面で皆さんにまたお会いできるのを楽しみにしています。





宣教協議会のための祈り／ぶどうの枝分科会(祈祷書改正委員会編)

宣教協議会のための祈り

11月10日(金)～13日(月)に開催される宣教協議会に向けて、実行委員会では「協議会のためのお祈りを作ろう」ということになり、実行委員長である磯崎久主教が次のようなお祈りとしてまとめてくださいました。

「信頼と和解、平和と正義の源である主よ、人間の愚かさや誤りにより、今なお戦争、弾圧、差別、分裂の絶えないわたしたちの世界を顧みてください。日本聖公会宣教協議会へと向かう歩みを祝福し、わたしたちがこれまでの歩みを振り返り、その実りを感じることができそうですようにお導きください。そして、新たな歩みの出発点とすることができそうですように、わたしたちの足元を照らし、知恵と力を

お与えください。

あなたは、み子イエス・キリストを通して、すべてのいのち、とくに小さくされている人々と共に生きることの大切さを示してくださいました。どうかぶどうの木である主につながり、生きとし生けるものの『となりびと』となる道を歩むことができますように、わたしたちをお導きください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン」

また、子どもたちとも一緒に祈ることができるよう、「祈り(こどもの祈り)」も実行委員会により作成されました。これらの祈りには、実行委員会が目指す宣教協議会の姿が示されています。このような協議会となるよう、どうか皆さんもお祈りください。

ぶどうの枝分科会(祈祷書改正委員会編)

標記の分科会が、3月16日

に開催されました。分科会としては第4回目です。参加者は、祈祷書改正委員会のメンバーと実行委員でした。祈祷書改正委員会担当主教の吉田雅人主教と専従者の市原信太郎司祭から「祈祷書改正のプロセスと現在の課題、宣教協議会に期待していること」と題してお話がありました。「私たちは共同体としてともに歩んでいく。その歩みを支えるのが祈祷書なのです」。吉田主教のこのような言葉が印象に残りました。また市原司祭からは、現在行われている多岐にわたる祈祷書改正作業についての説明をお聞きしました。その後、分かち合いの時間を持ちました。この働きが、神様の祝福とみ守りのうちに終えることができますように。宣教協議会ブログではこの他さまざまな情報をご提供しています。ぜひご覧ください。

(文責：司祭 北澤 洋)



↑ 宣教協議会スタッフブログはこちらから

東日本大震災被災者 支援プロジェクト報告

▼未曾有の地震被害と津波被害の後、定めのない放射能被害が続いていることがこの東日本大震災の大きな特徴と考えております。この度リーダーに就任しました浅原和裕です。よろしくお願いたします。▼「水曜喫茶」4月12日(水)に開催し7名(内スタッフ3名)の参加。次回は5月10日(水)を予定します。▼「お買い物支援バス」は月4回運航予定で、13日と20日の2日間のみ運航となりましたが、5月をもって一区切りといたします。▼被災地「モデルコース」の見直し等、リーダーの更新作業に入ります。私たちは多くの方と接し寄り添ってきました。今後も活動を見直しながら被災地と対面してゆきます。「日々の祈りと働きとして、小さくても止まることなく」を合言葉として活動を続けます。皆様の変換ることのないご支援をお願いいたします。

(リーダー 浅原 和裕)

常置委員会報告 (第7回・4月28日)

報告事項▼主教動静と今後の予定について。▼常置委員長報告・北海道教区・東北教区宣教協働における両教区「出会い」のための具体策について協議/主教按手式、主事会議について。協議事項▼教区主教就任に伴い、「十和田湖畔施設活用グループ」リーダーを島守信昭氏に、「東日本大震災被災者支援プロジェクト」リーダーを浅原和裕氏に変更、また「十和田湖畔施設活用グループ」メンバーに李贊熙司祭を加えることを承認。▼「宣教強化資金運用規程」改正に伴う「業務組織および業務分掌規程」の改正について次期定期教区会への議案提出を承認。▼山形聖ペテロ教会からの宣教強化資金運用グループへの融資申請について返済計画の見直しを条件に妥当と認め同グループに答申。▼祈祷書で用いられる「師父」を「主教」に読み替える旨、主教傳達を行うことを承認。▼新型コロナ感染症拡大防止に向け第11信を発出することと合意。



弘前昇天教会

今年、弘前昇天教会イースター礼拝は、定住牧師と共に献げることができました。去る4月5日は牧師の引越しがあり、受苦日には十字架の道行を献げました。イースターの朝は気温も低くみぞれの降る天気でしたが、日曜学校礼拝には30名以上が参加しました。また、復活日聖餐式には35名の信徒が参加して礼拝を献げることが出来たことにも感謝します。これから牧師と信徒皆が力を合わせてこの地域に神様の愛を広げることができそうです、お祈りを願います。

盛岡聖公会

聖堂修復工事を多くの方からの募金で無事完成することができました。誠に感謝いたします。なかには収穫したリンゴをご寄付くださり、教会信徒や仁王幼稚園の多くの

保護者のお買上げ協力により、その売上金を献金としてお献げいただくこともありました。また、幼稚園の園児がお小遣いを聖堂修復のためにこつこつためて献金するという、感動的な出来事もありました。まさに神様のお恵みです。

十和田湖畔ヴァイアル山荘

5月6日、ヴァイアル山荘の今年度開所式を行いました。雨の中、東北教区7教会から26名が参集。沢から水を山荘内に引き込み、鉛山礼拝堂の備品を包んでいるシートを外し、周辺の落ち葉を掃き清めて準備完了。「ここを訪れるすべての人びと一人ひとりに神さまの豊かな祝福と導きを与えられるよう」一同心をあわせて祈りました。どうぞ、いつでもお出で下さい。新しい山荘と自然豊かな湖が皆さんを待っています。

山形聖ペテロ教会

今年4月より定住牧師として遠藤司祭が当教会へ遣わされましたこと、感謝です。コロナ禍での3年間、不慣れな中、管理牧師として、李司

祭には大変お世話になりました。マイク無しでも心に響く力強いお説教に、力を与えられました。

礼拝出席者に若い世代がない当教会に於いて、次につなげる世代を遠藤司祭と共に、皆で努力し増やしていきたいと期待し願っております。

仙台基督教教会

今年のご復活を祝う聖餐式は、礼拝出席者も100名を超え、今まで感染防止のために2曲しか歌えなかった聖歌も4曲とフルに歌うことができました。礼拝後には日曜学校の子どもたちによる讃美歌の演奏もあり、聖堂一杯に喜びが溢れました。

4月22日の東北教区主教接手式は、コロナ禍のため参加制限があり、仙台に居ながら参加できずにとても残念でしたが、新しい主教様のお働きとご健康を心からお祈りいたします。

福島聖ステパノ教会

朝の連続テレビ小説「エール」放映中は、ロケ現場のひとつとなった教会にはかなり

の訪問客があったのですが、放送から3年たった今も、お訪ねくださる方の多くが「エールの教会」を見たいという方たちです。4月から牧師が交代し、撮影の詳しい説明はできなくなりましたが、たとえ地元の方ではなくても礼拝堂に入っていたら、少しでも教会の話をさせていただけるのは宣教なのだと思い、来訪者を待っています。

堅信おめでとう

テレサ 相澤 雅子 (5月14日・盛岡)

永遠の平安

パウロ 相澤 洋 (4月14日・盛岡)

フランシス 小山内 文甫 (5月1日・仙台)

「地球環境のために祈る日」 6月4日

「原発のない世界を求める週間」 6月4日〜10日

「沖縄週間」 6月18日〜24日

覚えてお祈りください

6月逝去者記念聖餐式
6月7日(水) 午前10時
於 主教座聖堂
司式説教 長谷川清純 主教

宣教師 Miss Marian Humphreys

1968年6月1日逝去

司祭 山縣雄杜三

1941年6月2日逝去

司祭 曾根 精

1929年6月6日逝去

Sr. Mariya Margaret

1994年6月6日逝去

司祭 テモテ中山眞

2019年6月8日逝去

司祭 ダビデ横田豊

2004年6月19日逝去

司祭 パウロ山崎正雄

1998年6月25日逝去

伝道師 桑野 倭

1936年6月29日逝去

司祭 ペテロ宅間信基

1984年6月30日逝去

伝道師 ルツ小笠原あい

2001年6月30日逝去

訃報

退職聖職・司祭 ヨハネ 齊藤政信師は、5月12日、逝去されました。同師の魂の平安をお祈りいたします。